



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

しらぼと

2005.6

No.254

日本野鳥の会 埼玉県支部

S H I R A K O B A T O



あの人の双眼鏡は…

「やっぱり、双眼鏡はZ社がいいよ」「いや、L社だね」「この頃はS社が人気だよ」「なんて言ったって国産だ」等々、とにかく双眼鏡の話は盛り上がります。いい双眼鏡を手に入れると、今よりたくさんの鳥に会えるような気がするから不思議です。BWの腕(?)が上がった錯覚にも陥ります。あの人の使っている機種が気にかかります。

そこで、「あなたの愛機を教えてください」と探鳥会や会議等で何名かの方々にアンケートをお願いしました。アンケート項目は、①使用機種、②使用期間、③その機種にしたわけ、使い勝手、思い出等、④次に購入したい機種の4点です。

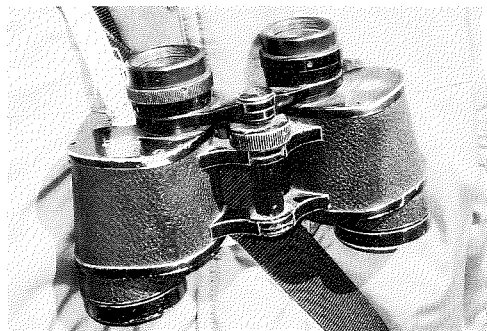
みなさんの①②③④も葉書やメールでお知らせ下さい。

藤掛保司さん(川崎市)

- ① ペンタックス8×24、ツァイス8×56B、ライカ8×32BA、スワロフスキー10×42EL
- ② それぞれ5年、10年、8年、3年
- ③ ペ…8倍がBWで最適と聞いて。ツァ…鳥友よりグレードアップを薦められ、輸入機種が安く購入できるレモン社で明るいタイプを購入。重い(約1kg)ので肩掛けタイプのストラップ(ホルスター型)を装着。ラ…鳥友のものを借用したら、軽くて明るくコンパクトなので妻の分と2台購入。コーワ製のエアークッション付ストラップを装着している。一日中、首に下げても負担にならない。ス…鳥友のを借用したら、近く(最短合焦点距離2,5m)も見えて、明るいので購入。
- ④ スワロフスキー 8×20B

石川敏男さん(春日部市)

- ① ニコン7×35(現在は生産中止のタイプ)
- ② 37年
- ③ 大学に入り、同好会でBWを始めまし



37年もの NIKON 7×35

た。当初は友人のものを借りていましたが、そのうち自分のものが欲しくなり銀座の松島眼鏡店で購入しました。当時は最新型でしたが、我が「ニコンの7倍」も古ぼけて骨董品になりつつあります。しかし、愛着はひとしお。これからも私の長い鳥見人生の伴侶として使い続けます。

青木正俊・真弓・里見・夏見さん(さいたま市)

- ① ニコン「スポーツスターⅢ」8×25DCF、ニコン「モナーク」8×42DCF
- ② 各2,5年、2年
- ③ ス…野鳥の会に入会して初めて購入した双眼鏡です。ポケットタイプとしては一番よく見えるのでは。購入して数ヵ月後、妻と子供二人に同じものを購入したので我が家には同じものが3台あります。モ…もっと口径の大きいサイズがほしくなり購入。スポーツスターと同じ倍率とは思えないくらい素晴らしいです。妻が探鳥会に来るときは取られてしまいます。
- ④ ニコン8×30EⅡ(モナークを妻に取られちゃいましたので)

新部泰治さん(さいたま市)

- ① ミラドール9×35BCF
- ② 8年
- ③ 自社製の一番鳥見に適した製品で、生活防水型でもあるので。

玉井正晴さん(蓮田市)

- ① ツァイス8×30BMC DIAFUN
- ② 8年以上
- ③ 本機種を買おうと思ったのは、長時間首



高野伸二さんも使用していた NIKON 8×30

にかけていても肩のこらない双眼鏡が欲しくなったことが一番の理由です。加えてツァイス社の製品としては非常に安価であったことが要因となりました。

重量450gなので肩がこることはないし、片手で楽に扱えるので、無理な体勢を取らざるを得ないときや、もう片方の手に荷物を持っていても鳥を見ることができます。当分は使い続けようと思っています。

楠見邦博さん（さいたま市）

- ① ポシュロム 8×42、ニコン 7×35
- ② 各10年（1994,1から）と20年以上
- ③ ボ…鳥を見初めて10年過ぎ、いい双眼鏡が欲しくなった。そこでヘソ曲がりの私は、そのころ多くの人が持っていたツァイスは避け、マッカーサー元帥が厚木に降り立ったときに持っていたポシュロム（アメリカの軍用からスタートした）を購入した。保証期間は100年、ボディの肌触りと、暗くなったときによく見えてくるレンズに乾杯。ニ…鳥を見初めたときから使用。明るくてよい。また、落としたりするときのへこみ具合と塗装のはげ具合もいい味が出てきている。

〔 〕さん

※編集部まで住所とお名前をご連絡ください。

- ① ニコン 8×30CF
- ② 48年
- ③ お金をため、初めて手に入れた双眼鏡である。今では薄汚れ、ケースもレンズキャップも行方不明となってしまった。出番の回数こそツァイス10×40Bに譲ってはいるが、決して現役を退くことはなく、手にされる目を心待ちにして、デスクサイドでスタンバイしている。

2004年

埼玉県内鳥見ランキング結果発表

普及部

恒例となりました埼玉県内鳥見ランキング、2004年の結果は次表の通りとなりました。

観察鳥種数部門、探鳥会参加数部門ともに、ディフェンディングチャンピオンである、藤澤洋子さんと鈴木敬さんが3年連続チャンピオンになりました。

藤澤さんは昨年148種から1種減りましたが、チャンピオンとしてまんべんなく稼がれています。参加者も年々増えています。さいたま市の青木さんは親子で参加され、それぞれ100種以上の観察には脱帽です。

鈴木さんは昨年に続き平均週1回の参加と、観察種の第2位入賞も立派な記録となるでしょう。

2004年観察鳥種数ランキング

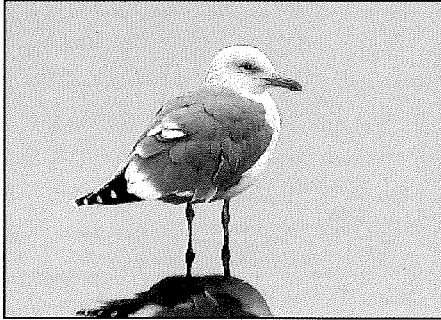
順位	鳥種数	観察最終日	氏名	住所
1位	147種	12月30日	藤澤 洋子	志木市
2位	136種	12月19日	鈴木 敬	小川町
3位	119種	12月18日	玉井 正晴	蓮田市
3位	119種	12月19日	田邊八州雄	越谷市
3位	119種	12月26日	新部 泰治	さいたま市
6位	117種	12月22日	植平 徹	越谷市
6位	117種	12月24日	青木 正俊	さいたま市
8位	109種	12月26日	青木夏美(小2)	さいたま市
10位	106種	11月28日	青木里美(小5)	さいたま市
11位	104種	12月 8日	久保田忠資	狭山市
12位	89種	11月 3日	四分一保雄	羽生市
13位	79種	10月10日	榎本 秀和	鴻巣市
14位	76種	9月26日	橋口 長和	春日部市
15位	73種	10月17日	逸見 嶮	吹上町

2004年探鳥会参加ランキング

順位	参加回数	探鳥地数	氏名	住所
1位	52	29	鈴木 敬	小川町
2位	43	22	青木 正俊	さいたま市
3位	39	19	青木 夏美	さいたま市
4位	38	23	藤掛 保司	川越市
5位	36	24	新部 泰治	さいたま市
6位	36	15	栗原 省二	吹上町
7位	35	18	青木 里美	さいたま市
8位	30	19	田邊八州雄	越谷市
9位	28	19	植平 徹	越谷市
10位	23	15	四分一保雄	羽生市
11位	21	13	玉井 正晴	蓮田市
12位	20	12	榎本 祐子	加須市
13位	17	12	藤澤 洋子	志木市
14位	14	9	大久保健二郎	蕨市
15位	9	5	榎本 秀和	鴻巣市



●キアシセグロカモメ？



本年3月20日(日)川越市伊佐沼で北村隆会員(鶴ヶ島市)が撮影。キアシセグロカモメではないかと、委員会に寄せられました。足の色は明瞭な黄色ではなく、少し赤みがかって見えます。

セグロカモメ *Lalus argentatus* (斜体文字は学名) は、北半球の広い範囲で繁殖していて、繁殖地により上面や足の色などに変異が見られることから、いくつもの亜種に区別されていました。

ところが近年、それぞれの亜種の繁殖地域が拡大し、別の亜種の繁殖地域と重なるようになって、両亜種間の交雑種がほとんど認められないことから、種に格上げされるようになり、地中海や中央アジア内陸湖で繁殖する数亜種をまとめてキアシセグロカモメ *Lalus cachinnans* とするようになりました。日本に渡来するのは、この種の最も東の亜種 *Lalus cachinnans mongolicus* ですので、これをモンゴルカモメと呼ぶ人もいます。

「足の黄色いセグロカモメ」に、ほかに、ホイグリカモメ *Lalus heuglini* というのがありますが、これはかつてのニシセグロカモメ *Larus fuscus* のうち、ロシアタイミル半島付近で繁殖する2亜種を独立種としたものです。

しかし、これらの学問上の分類は現在もまだ流動的であり、かなり慎重な検討が必要です。当委員会が分類上の根拠にしている日本鳥学会発行『日本鳥類目録改訂第6版2000』

では、従来通りセグロカモメと記載されていて、キアシセグロカモメやホイグリカモメなどの分類は採用されていません。

また、*Lalus cachinnans mongolicus* の繁殖地バイカル湖では、足の色が黄色からピンクまで様々な変異が報告されており、識別の上でもまだ明確な基準は確立されていません。「顔つき」、「体型」、上面の色、頭部の縦斑など、様々な特徴を総合して判断しているのが、実情です。

今回の写真だけでキアシセグロカモメであるかどうかを判断することは難しく、かつ鳥類目録第6版によっても種としての記録はできないことから、今回は、このようなカモメ類が報告されたという参考記録として残すことになりました。

●ハイロヒレアシシギ

学名 *Phalalopus fulicarius*

英名 Grey Phalarope (英)

Red Phalarope (米)

分類 チドリ目ヒレアシシギ科

ヒレアシシギ属

5月3日(火)付け読売新聞埼玉県南版に、4月21日(木)さいたま市大宮区の芝川でハイロヒレアシシギが撮影されたとの記事が、カラー写真とともに掲載されました。

新聞写真ですので、細部はよく分かりませんが、同種として特に矛盾のない写真です。

過去の県内の記録は、

- 1, 1976年4月25日と5月5日、浦和市(現さいたま市)秋ヶ瀬の池で1羽観察。(写真なし。埼玉県動物誌)
- 2, 1990年12月1日、越谷市内で保護された後死亡。剥製を当委員会が本種と同定、県内で初めて確認記録した。(本誌1996年7月号第147号)
- 3, 1998年4月15日、利根大堰で4羽観察。(写真なし。本誌1998年6月号第170号)
- 4, 2002年4月29日(月)戸田市で2羽撮影。(本誌2002年7月号第219号)

したがって今回の記録は、確認記録としては3例目、生きている状態で撮影されたものとしては、2例目になります。

少しの譲り合いと普通の挨拶を

日本野鳥の会埼玉県支部役員会

支部宛メールの事例1

「子供達に自然を体感させる私塾を営んでいます。秋ヶ瀬公園では、『たも網片手に池めぐり』や『ザリガニつり大会』などをしています。出来るときには野鳥も観察しています。

ところが、子供達がおびえてしまうようなバードウォッチャーに初めて出会いました。その時に何かを撮影していたわけではなく、ただ三脚を立てて待っている状態でしたが、『いつまでやってるんだ!』『自然教室かなにか知らんが、狂ってる!』等の暴言の数々。三脚を立てて陣取れば、その池は1日その方だけのものとなるのでしょうか?」

支部宛メールの事例2

「野鳥の撮影をしようとして6名ほどで待っている時、貴支部の探鳥会に遭遇し、大変いやな思いをしました。あまりにも賑やかすぎ。始める前にマナーその他の説明はしないのでしょうか。探鳥会にも色々遭遇しましたが、最後に担当の方が『お騒がせしました』とか『ご迷惑お掛けしました』とかのご挨拶をいただいていた。残念ながら今回はありませんでした。そこにいた全員から、『何だあれは』との声があがりました。野鳥の会の行為、行動とは思えませんでした。」

事例1の「バードウォッチャー」につき、心当たりの人に尋ねたところ、そのようなトラブルがあったことを認め、「野鳥の会には入会していない。『いつまでやっているのか』と聞いたら『子供達が飽きるまで』と言われたので、つい強い口調になってしまった。ただ、会員ではない私が言った事で、野鳥の会県支部にまで迷惑がかかったことは、申し訳ない」とのことでした。

事例2については、具体的にどこで起こったことなのか、詳しい状況はどうか教えてほしいとメールしましたが、返事はいただけず、確かに当支部の探鳥会であったかどうかも含めて、事実関係の確認は出来ませんで

した。ほかに、支部役員会の中でも「いや、実は私も、そんな所には写真の邪魔だ、どけ!」と怒鳴られたことがある。公園内の道路なのに」など、いろいろな事例が話し合われました。

結論は、実に当たり前のことです。

まず、公園でもどこでも、バードウォッチングが特権的行為である理由は、何もありません。野鳥の撮影だからと言って、ほかの人を排除できるという権利も、どこにもありません。お互いに少しずつ譲り合い、みんながそれぞれのやり方で楽しめるようにするのは、普通の社会的な常識です。

それぞれの人達も、例えば仕事の場面では、決してそのような話し方はしないのではないのでしょうか。フィールドでも、仕事の場合と同じように、「〇人くらいが〇分くらいおじゃまします。よろしく」とか、「今こういう状況でこういう撮影をしたいと思っています。できれば少し場所を移動していただけますか」など、普通の話し方をすればいいのに、なぜそれができないのでしょうか?

要するに、小学生の標語のような、気恥ずかしいタイトルになってしまいますが、「少しの譲り合いと普通の挨拶を」ということにつきと思います。

大切な自然との触れ合いの時間を、気まずいもの、あるいは腹立たしい思い出にしては、何もなりません。バードウォッチャーもカメラマンも皆、普通の社会人のひとりとしての常識を持ち続けることが必要です。

会員ではない方はこの文章を読まないかもしれませんが、まず最初に支部の役員リーダーが自覚し直すことから始め、支部会員の皆様にもご協力いただいて、「少しの譲り合いと普通の挨拶」を広げることで、フィールドを、よりなごやかなものにして行こうではありませんか。



野鳥情報

さいたま市見沼区膝子 ◇2月7日、焼入れの入った農耕地でタゲリ3羽、カシラダカ、タヒバリ、ツグミなど（鈴木紀雄）。

さいたま市見沼区大谷環境広場 ◇2月14日、タゲリ4羽、イカルチドリ5羽、タシギ4羽、ツグミ、タヒバリ、ハクセキレイなど。2月15日、イカルチドリ10羽、タシギ5羽、ツグミ、タヒバリ、シメなど。2月16日、雨の中、クサシギ2羽、タゲリ4羽、タシギ2羽など（鈴木紀雄）。

さいたま市大宮区大宮第三公園付近 ◇2月13日、ベニマシコ♀♀が芝川の土手の僅かな草の実を頬張り、モズがペアリングを始めたのか、盛んに追いかけてこをしていた。ホオジロも恋の季節か、負けずに梢で盛んに囀っていた。キンクロハジロ、ホシハジロ、ヒドリガモ、ヨシガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、コガモ、皆色鮮やかによそおって春を待っていた。2月21日、枯れたセイタカアワダチソウの中で、ベニマシコ♀♀10数羽が盛んに鳴きながら毛羽立った実を啄んでいた。周りにはホオジロ、カシラダカ、カワラヒワ、アオジ、ツグミ、スズメが盛んに飛び交っていた。芝川にオナガガモ、カルガモ、コガモ、マガモ、ヒドリガモに、このところヨシガモが来てくつろいでいる。3月6日午後4時頃、芝川の土手の緑が残る草を盛んに食べるカモがいて、近づくと数羽のカルガモ、オナガガモが脇目も振らずに食べていた。少しはなれたところには40～50羽のスズメとムクドリが群が枯れた草の中に餌を求めていた。今が餌に苦勞する時期なのか。川の中では、夏羽に変わったカイツブリが、とても口に入りそうもない大きなザリガニの脚を取って呑み込むのに四苦八苦。岸辺には久しぶりに姿を見せたゴイサギがゆったりとたたずんでいた（赤堀尚義）。

さいたま市桜区秋ヶ瀬公園 ◇2月15日、子供の森でアカゲラ、シロハラ、シメ、カシ

ラダカ。小さな倒木の上に数羽のアオジに混じった2羽のクロジを見つけ大喜び。帰途ゴルフ場の脇道のブッシュの中からキツネが出現。ピョコンと飛び跳ね、小道を横断し消え去る。全くの驚き、こんな所に…と（陶山和良）。

さいたま市西区鴨川 ◇2月18日午後3時30分頃、関沼付近土手の上から、葦原のベニマシコ♂が至近距離で見られた。紅色既に濃い。タシギ4羽、ジョウビタキ♂、イソシギ、コサギ、ハシビロガモも目に入った（増田徹）。

岩槻市岩槻文化公園 ◇2月7日、カイツブリ、カワウ、コサギ、カルガモ、コガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、イカルチドリ、セグロカモメ、モズ、シロハラ、ツグミ、ウグイス、カシラダカ、アオジ、クロジ、オオジュリン、シメ、カケスなど35種。2月9日、カイツブリ、カワウ、ダイサギ、コサギ、コガモ、カルガモ、ヒドリガモ、オオタカ、タシギ、カワセミ、アカゲラ、コゲラ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ジョウビタキ、シロハラ、ツグミ、ヤマガラ、メジロ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、オオジュリン、シメ、カケス、オナガ、コジュケイなど38種。2月15日、イカルチドリ、イソシギ、タシギ、カワセミ、セグロセキレイ、ジョウビタキ、アカハラ、シロハラ、ツグミ、ヤマガラ、メジロ、カシラダカ、アオジ、オオジュリン、シメ、カケス、タゲリ5羽など33種。セグロセキレイは珍しく2羽いたが、1羽は別の1羽より色がくすんで見えたのは、♀？ それとも第1回冬羽？ 元荒川の中洲のタゲリはすぐに飛び立った。2月18日、カイツブリ、カワウ、ダイサギ、コサギ、カルガモ、コガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、キジ、イカルチドリ、イソシギ、タシギ5羽、カワセミ、アカハラ、シロハラ、ヤマガラ、カシラダカ、アオジ、クロジ、オオジュリン、ベニマシコ♂1羽、シメ、カケス、コジュケイなど41種。キジはここでは、珍しい。コサギは隣接する釣堀で見かける。釣り客のおこぼれをもらう。同一

個体と思われる。クロジは暗い水路沿いの藪の地面でゴソゴソ。久しぶりのベニマシコの赤が美しかった。(鈴木紀雄) ◇2月22日、午後12時前後、村国池周辺でゴイサギ、コジュケイ、カワセミ、アカゲラ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、モズ、ジョウビタキ♀、アカハラ、シロハラ、ツグミ、ヤマガラ、ホオジロ、カシラダカ、シメ、カケス、ルリビタキ♀、ベニマシコ♂。僅かな葦原と柳の古木にシジュウカラの群れとコゲラ、メジロ、アオジ、オオジュリン、カワラヒワ。加えてウグイスまで確認できました(大塚操)。

岩槻市本町1丁目 ◇2月15日午前10時、青空を見上げるとオオタカが舞っていた。気持ち良さそうに旋回しながら西へ(鈴木紀雄)。

岩槻市加倉5丁目 ◇2月15日午前9時30分頃、自宅2階のベランダで洗濯物を干していたら、近所の伝書鳩が慌てたように飛んでいた。すると、どこかでドスンという音。その内、水路をはさんだ反対側の家の塀の内側に飛び込むハトと、それを取り逃がして塀の上にとまっている鳥を見る。よく見ると若いオオタカでした。その後、カラスに追われて西の方へ飛んで行ったが、30分後、ドバトを追いかけて南へ飛んで行くのを目撃(藤原真理)。

岩槻市慈恩寺 ◇2月17日、慈恩寺橋すぐ下流の元荒川でヒドリガモに混じってオシドリ♀1羽が泳いでいた(鈴木紀雄)。

蓮田市 ◇2月2日午前5時前後、フクロウ1羽、「ホッホー、ゴロスケホッホ」の声を15m位の近くから聞いた。今シーズン初。寒さも忘れて心ときめいた(本多己秀)。

蓮田市黒浜 ◇2月2日正午前後、アカハラ1羽、療養所内でトラツグミ1羽、カシラダカ約50羽、メジロ、ホオジロ、アオジ、シロハラ3羽、カケス他。2月10日、同所でトラツグミ1羽、エナガ5羽がシジュウカラ、メジロ、コゲラと混群を作って樹冠を移動していた。ツグミ、アオジ、カシラダカなど。2月17日、同所でクロジ成鳥冬羽2羽。藪の中にいたが、運よく順光でし

っかりと見ることができた。あと1羽いたが、確認できなかった。コツコツと木をたたく音がしたので、5分くらい待っているとアオゲラ♂1羽が姿を現した。黄緑と赤がとても感動的に見えた。シメ、カシラダカ、オオジュリン、ジョウビタキ、シロハラ2羽、キクイタダキ1羽、カケス5羽など。2月20日、同所でトラツグミ1羽、キクイタダキ2羽、アカハラ1羽、シロハラ2羽、カケス2羽。カシラダカがやたらと多い。その中にアトリ♂1羽♀1羽。オオジュリン、オナガ、コゲラ、ツグミ、シジュウカラ、ジョウビタキ、モズなど。2月21日、トラツグミ2羽、キクイタダキ2羽、ビンズイ1羽、アトリ4羽、カケス2羽、シロハラ3羽、カシラダカ、オオジュリン、キジ♂1羽など(本多己秀)。

葛蒲町上大崎 ◇2月10日、カワラヒワ約200羽、タヒバリ約100羽、ツグミ約40羽、ハクセキレイ4羽。これらが、野焼き直後の黒く焦げた刈跡のある一枚の田んぼに大集合して、忙しく採餌。まるでラッシュアワーの駅のようにびっしりと。にぎやかでした(本多己秀)。

長瀨町宝登山 ◇1月19日正午頃、ロープウェイ駐車場奥角登山道の上り口脇で眉斑が白くいろいろな特徴からマミチャジナイと思われる個体1羽。雪のない軒下等で落葉をかきわけ採餌していた(新部泰治)。

狭山市稻荷山公園 ◇2月15日、イカルと一緒にコイカル1羽、当公園でははじめての観察。ソウシチョウ20~30羽(公園の水場はこの鳥に占領された感じあり)。その他アオゲラ、ルリビタキ、ヒガラ、ヤマガラ、シロハラ、ビンズイなど25種(久保田忠資)。

表紙の写真

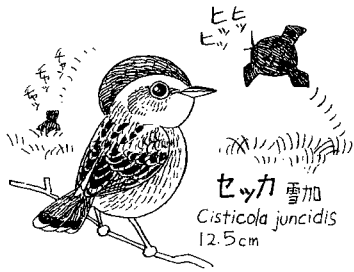
ハト目ハト科アオバト属アオバト

常緑樹の中に隠れるようにとまり、体をふくらませていましたが、降りる前になると丹念に羽繕いをして、段々体がスリムになっていきました。この個体は1年目のオスかと思われます。

小林ますみ(所沢市)



行事案内



(富士鷹なすび)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章した担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちがあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費：一般 100 円、会員と中学生以下 50 円。持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば双眼鏡などの観察用具も(なくても大丈夫)。解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。

悪天候の場合は中止、小雨決行です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：6月5日(日)

集合：午前9時、北本自然観察公園駐車場。
交通：JR高崎線北本駅西口アイメガネ前から北里メディカルセンター病院行きバス8:40発で「自然観察公園前」下車。

担当：岡安、大坂、内藤、島田、立岩、永野(安)、永野(京)、山野、

見どころ：季節は流れて、「彩り」から「音」への移り変わりを感じます。カエル合戦はもう聞かれましたか？ここ石戸宿にも、特徴的なさえずりの鳥たちがやってきます。オオヨシキリ、カッコウ、ホトトギスなど。

さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

期日：6月5日(日)

集合：午前9時、浦和くらしの博物館民家園駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR浦和駅西口バス1番乗り場から、浦和美園駅経由・埼玉スタジアム行き8:31発で「念仏橋」下車。

後援：浦和くらしの博物館民家園

担当：手塚、伊藤(芳)、工藤、倉林、若林、新井(勇)、赤堀

見どころ：山々もすっかり緑におおわれて美しい季節になりましたが、今日は平地で夏を過ごす鳥たちをじっくりと観察しませんか。アシ原にオオヨシキリの歌声を聞きながらヨシゴイにも期待しましょう。

秩父市・三峯神社探鳥会(要予約)

期日：6月11日(土)~12日(日)

定員に達したので締め切りました。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：6月12日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前
交通：秩父鉄道熊谷9:11発、または寄居8:49発に乗車。

担当：榎本(秀)、中里、後藤、和田、森本、島田、石井(博)、倉崎、高橋(ふ)、藤田、栗原、大澤、飛田、新井(巖)

見どころ：梅雨晴れの青空に、カッコウの声が響き渡ります。アシ原ではオオヨシキリが大合唱。空からはセッカの声も降ってきて、大麻生は初夏のよそおい。

「しらこぼと」袋つめの会

とき：6月18日(土)午後3時~4時ころ

会場：支部事務局108号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：6月19日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、福井、手塚、倉林、渡辺(周)、若林、森、小菅、赤堀、新部、青木

見どころ：芝川の工事は、探鳥をする場所まで進捗。4月から、探鳥会の安全と鳥

の出現状況を考えて、何回か下見をしてきました。斜面林や雑木林、昨年見沼の自然を守る人々が植え付けた水田などがあり、今まで知らなかった場所です。探鳥するかも。お楽しみに。

坂戸市・高麗川探鳥会

期日：6月19日(日)

集合：午前9時、東武越生線川角駅前

交通：東武東上線川越 8:13→坂戸で越生線乗り換え 8:42 発。または寄居 7:53→小川町乗り継ぎ、坂戸で越生線乗り換え。JR川越線大宮 7:35→川越で東武東上線乗り換え。

担当：藤掛、高草木、青山、久保田、志村、増尾、佐藤、池永、高橋(優) 杉原、原、藤澤、山田(義)、持丸、林

見どころ：コチドリとイカルチドリの識別、子育ての様子などを観察。昨年はホトトギスの声が聞けましたが、今年も期待しましょう。梅雨時の河川敷を歩きますので、靴にはご注意ください。

平成17年度支部総会のご案内

日時：6月26日(日)

午後1時受付開始

午後1時30分～2時30分 記念講演

午後2時30分～4時30分 総会

会場：さいたま市浦和岸町コミュニティーセンター第1和室(昨年までの会場とは違います。ご注意ください。)

アクセス：JR浦和駅西口から県庁通りを西に進み、旧中山道との交差点を左折して南へ、調(つきのみや)神社を通り越して徒歩15分、右側。(さいたま市浦和区岸町5-1-3、電話 048-824-0161)

記念講演：本会自然保護室山田泰広 演題(仮) IBA野鳥重要生息地事業について

総会議題：平成16年度事業報告と決算報告、平成17年度事業計画と予算案、平成17年度役員の選出。

支部会員であればどなたでも参加できます。前年度の支部活動を振り返り、今年度の方針や予算を決める大切な総会です。多数の方の

ご参加をお待ちしています。

今年は都合で広い会場が取れず、和室で、膝つき合わせての会議です。総会終了後、支部事務局内で懇親会も予定しています。



オオヨシキリ (久保田忠資)

カラスフォーラム 2005 『街のカラスとのつきあい方』

今回はこれまでの活動の集大成と位置づけ、カラス問題解決への提言をまとめる予定です。

日時：2005年7月3日(日) 13時～17時

会場：東京大学・弥生講堂一条ホール(文京区弥生1-1-1 東京大学農学部内)

主催：日本野鳥の会東京支部・(財)日本野鳥の会

【プログラム】

基調講演1：樋口広芳(東京大学大学院教授)

『カラスの地域食文化と人間生活との軋轢～カラスはなぜ石鹸やロウソクを持ち去るのか』

基調講演2：松田道生(日本野鳥の会評議員)

『なぜ殺される・東京のカラス』

公開会議：『とうきょうのカラス問題はこうして解決する』

出席者：羽山伸一(日本獣医畜産大学助教授)、清水敏男(千葉県市川市環境清掃部自然環境課長)、山崎孝寿((株)遊歩クリエイティブ・ジャパン社長)、星維子(日本野鳥の会会員・主婦)、川内博(日本野鳥の会東京支部幹事)

司会：古南幸弘(日本野鳥の会自然保護室長)

定員：300名(先着順) 資料代：500円



行事報告

12月23日(木、休) 年末講演会

参加：60名 場所：さいたま市民会館浦和

第1部では、「ビデオで振り返るこの1年」と題し、町田好一郎会員(本庄市)、菱沼一充会員(白岡町)、手塚正義会員(川口市)および海老原美夫会員(さいたま市)によって、それぞれの1年間の探鳥記録が上映された。

第2部では、シラコバト調査(2000年～2001年)に関する調査報告が、「シラコバト見つけ隊」からあった。橋口隊長から調査の概要と1000件を超えるデータを利用した林美希会員(当時東京農業大学在学)の卒業論文の紹介があり、玉井副隊長から行田市小針におけるシラコバトの罫についての調査考察があった。

第3部では、日本野鳥の会栃木県支部から、高松健比古氏(前支部長)をお招きして、「渡良瀬遊水地の猛禽たち」と題したご講演をいただいた。渡良瀬遊水地の歴史と現在、その特徴と動植物、生息や越冬が確認されている猛禽類とその一斉調査、遊水地とラムサール条約についてわかりやすく解説いただいた。

その後、会場を支部事務所に移し、希望者で高松氏を囲み、講演の続きの話や鳥談義に花を咲かせて年末のひとつときを過ごし、無事に解散となった。(橋口長和)

1月16日(日) 長瀬町 長瀬

雨のため中止。

2月6日(日) 北本市 石戸宿

参加：93名 天気：晴

カウ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ ノスリ キジ クイナ バン キジバト カワセミ アカゲラ コゲラ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ルリビタキ ジョウビタキ アカハラ シロハラ ツグミ ウグイス エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ ベニマシコ イカル シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハ

シプトガラス(38種) エドヒガンザクラ近くの梅林でルリビタキを全員で心ゆくまで堪能した。前の池にカワセミも出現。河原の木にはノスリが止まっていた。参加者の中には越冬するクイナを見られた幸運な人も。締めくくりは北里の森のアカゲラだった。期待のベニマシコはちらりと姿を現しただけ。アリスイ、ヤマシギ、トラツグミと共に、出会いは次回に持ち越し。(岡安征也)

2月26日(土) 上尾市 丸山公園

参加：34名 天気：快晴

カイツブリ カワウ コサギ マガモ カルガモ コガモ トビ オオタカ ノスリ キジ キジバト アカゲラ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ シロハラ ツグミ ウグイス ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシプトガラス(35種) 公園では、葉のない梢に鳥の姿がなく沈黙の歩行。そのうちにアカゲラとの声。何処だ? いたいた。頭の赤が綺麗だ! 寒さを忘れさせてくれる。定番のカワセミには振られたが、河川敷でカシラダカ、ホオジロの群れに出会い、それなりに満足出来たと思う。(大坂幸男)

2月27日(日) 本庄市 坂東大橋

参加：33名 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ マガモ カルガモ オナガガモ キンクロハジロ カワアイサ トビ オオタカ ハイタカ ノスリ チュウビ ハヤブサ チョウゲンボウ イカルチドリ ハマシギ イソシギ セグロカモメ キジバト ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシプトガラス(39種) カモたちが少なくかつ遠方の為、急遽コースを変更。これが大正解。正に人間万事塞翁がお馬さんのスタンス! 新旧の坂東大橋を潜った所で、チョウゲンボウがドバトをアタックする決定的瞬間に遭遇。紺碧の空にはノスリとハヤブサが飛翔! そのノスリとハイタカのバトルもじっくり観察。カモたちをチラッと観察し帰路、木立にオオタカ♂の勇姿が。な、

なんとオオタカの直ぐ脇をチュウヒが悠然と飛翔。そして我々の目の前をじっくりフライト。翼の様子がはっきりと識別出来て大歓声！ と、先ほどのオオタカが「今度はオレの番だ」と言わんばかりにチュウヒの飛翔コースをたどるように至近距離で飛翔！ う～ん参った！ 「一日でこんなに猛禽たち見ちゃっていいの？」と参加者のつぶやき！ やっぱり冬こそ坂東大橋！ 期待を裏切らなかった。おっと、からっ風が少なく温暖な天気、これだけは予想外。つきみ荘のトイレ借用対応にやや不満顔もこれで解消。満足、大満足！

(町田好一郎)

2月27日(日) 岩槻市 岩槻文化公園

参加：71名 天気：晴

カイツブリ カワウ コサギ カルガモ コガモ ヒドリガモ オオタカ イカルチドリ キジバト コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ルリビタキ アカハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (32種) 村国池の林ではベニマシコとルリビタキの♀タイプ、カシラダカなどが出現し、ほぼ全員がスコープでじっくりと観察できた。後半にはオオタカが強風の空を舞い、元荒川では、イカルチドリや、岸辺に上がって餌をついばみ日差しを浴びて美しく輝くヒドリガモ、コガモの姿を堪能することができた。

(長野誠治)

2月27日(日) 富士見市 柳瀬川

参加：37名 天気：晴

カワウ コサギ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ チョウゲンボウ イカルチドリ イソシギ タシギ セグロカモメ キジバト カワセミ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (35種) 北風に揺れる葦の先にオオジュリン、アオジが飛ぶ。最近顔を出すようになったカワセミに足が止まる。アメリカヒドリもどきはいなかったが、日当たり

の良い中州で目をパチクリさせるタシギに、気分もホットになった。

(高草木泰行)

3月5日(土) 加須市 はなさき公園

参加：24名 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ カルガモ コガモ ヒドリガモ ハシビロガモ ホシハジロ スズガモ ノスリ チョウゲンボウ バンキジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (36種) 雪という天気予報ははずれて、絶好の鳥見日和となった。青毛堀川に出ると、ヒバリがさえずり始めた。田んぼではホオジロ、カシラダカ、オオジュリンの群れが確認できた。池には6種のカモが入っていて、ここでは珍しいスズガモ♀が出て大騒ぎになった。植物園では、モズの♂♀が近づいていて、ペアリングが始まっているようだった。随所でカワセミが出て皆を喜ばせてくれ、最後にノスリが舞って締めくくってくれた。

(中里裕一)

3月6日(日) 寄居町 玉淀河原

参加：45名 天気：晴後曇

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ コハクチョウ オシドリ マガモ カルガモ オナガガモ ミサゴ オオタカ イカルチドリ クサシギ イソシギ キジバト カワセミ アオゲラ アカゲラ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ビンズイ タヒバリ ヒヨドリ ルリビタキ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス エナガ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (41種) 未明の降雪で所々白くなっているが、日差しもあり、まずまずの探鳥日和だった。玉淀河原では、ご当地名物のオシドリ、また、ご当地初のコハクチョウ数羽が見られて大感激。さらには上空には、ミサゴ、オオタカが出現。鉢形城址では、アカゲラ、アオゲラ、シロハラが、森林研究所花木園ではルリビタキ♂が出現。終わってみれば41種。参加者一同なごやかな雰囲気にて終了。

(後藤康夫)



キビタキ (又部綱仁)



連絡帳

●発送日の調整について

支部報だけの会員に送るために5月号を袋づめたのは、4月16日(土)でしたが、郵便局から発送したのは21日(木)でした。

2~3人の方から、袋づめが終わっているはずなのに、まだ『しらこぼと』が届かないというお電話をいただきましたが、予約申し込みが必要な探鳥会案内が掲載されている場合、『野鳥』誌と同封発送される分と日にちに差があると、先着順の申し込みに不公平が生じることがあるので、発送の日にちを調整したわけです。

5月号の場合は、戸隠の探鳥会がそれに該当したための調整でした。今後も、できるだけ公平になるように、発送の日にちを調整する場合がありますので、よろしく願います。

●普及活動

昨年秋から今年3月20日(日)まで4回にわたって開催された蓮田市中央公民館主催のバードウォッチング講座は、中島康夫、赤坂忠一、田中幸男、玉井正晴、長嶋宏之、吉安一彦が指導しました。

●事務局の予定

- 6月4日(土) 編集部・普及部会議。
- 6月11日(土) 7月号校正(午後4時から)。
- 6月18日(土) 研究部会議。袋づめの会(午後3時から)。
- 6月19日(日) 役員会。

●会員数は

5月1日現在 2,350 人です。

活動報告

4月1日(金)、12日(火)、22日(金)本部常務会、長中期計画作業部会などに出席(海老原美夫)。

4月8日(金) 4月号校正(大坂幸男・佐久間博文・藤掛保司・山田義郎) 9日(土)にも(海老原美夫)。

4月17日(日) 役員会(司会:長野誠治、各部の報告・講演や指導依頼への対応・野鳥密猟情報への対処・フィールドマナーに関する原稿について・総会準備など)。

4月21日(木) 5月号を発送(倉林宗太郎)。

4月27日(水)カワウ対策広域協議会に出席(小荷田行男)。

編集後記

GW 目前のある朝、くしゃみをした途端、腰に激痛。これが噂に聞くギックリ腰という奴だろうか? 連休後半に山歩きを予定していたため、前半は静養。ようやく治ったと思ったら、山歩きは雨天中止。結局、近所の公園でキビタキを見ただけ。舐倉島でアレを見た、コレを見たと、嬉しそうな話し声が聞こえてくるが、耳を覆いたい……(みどり)

連休後に舐倉島を予定している。ギックリ腰はずっと前に経験済み。だから、多分大丈夫だと思う。(海)

しらこぼと 2005年6月号(第254号) 定価200円(会員の購読料は会費に含まれます)

発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130

〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号

TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 <http://www.bekkoame.ne.jp/ro/wbsj-saitm/>

編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com

住所変更退会などの連絡先 〒151-0061 渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル1階

(財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608

本誌掲載記事はホームページに転載されます。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。再生紙を使用しています。印刷 関東図書株式会社